



自然界の贈り物 活きた五糧茶
http://www.torea.co.jp

Web 検索

Go

ニュース

成功者には、ある共通した法則があることが20年にも及ぶ
追跡調査・研究の結果判明致しました。その法則とは！

金持ちビジネスマン
成功のノウハウとは？

新
展

チャンネルトップへ

ニュース | ジャーナル | トピックス

SHARP製TFTモニタ+
hpDesktopPC【¥89800】

負組 勝組 逆転一発
サイボウズ

ニュース
トピックス
ジャーナル

業界レポート (PR)
(提供 インテリジェンス)



▶高齢化にひとすじの光
▶違法コピーに罰金刑

監売新聞
▶北朝鮮代表が核保有を
表明…米CNN

サンスポ & 夕刊フジ
▶SARS “国内感染”
なら日本経済大打撃(夕
刊フジ)

日刊スポーツ
▶ヤクルト高津、プロ野
球新通算230セーブ

AFP-時事
▶欧州中銀、今後数カ月
内に利下げへ＝独仏の赤
字上限突破を警告＝
OECD経済見通し

毎日新聞
▶[北朝鮮]核兵器保有を
示唆、3カ国協議で 米
CNN報道

時事通信社
▶円、120円挟み＝
対ユーロで4年ぶり安値
＝ロンドン外為

ジャーナル
▶グレートではない日本の
「アスリート議員」(4
月24日)

e.n 派遣のお仕事情報
時給1500円以上 | 検索
時給1700円の仕事500件
派遣のお仕事ならこちら
【無料】派遣のメルマガ！

千と千尋は米国で理解されたのかー善悪2項対立のアメリカ人と八百万(やおよろず)神の日本人

2003年4月23日

吉田 朱見

アカデミー賞受賞をうけ、宮崎駿監督の「千と千尋の神隠し」が全米で拡大上映された。大統領が「悪と善の二項対立」の人間観を明言。アニメや映画でも善と悪を明確に線引きして、最後は善が勝って「めでたし、めでたし」となることが多い米国。八百万(やおよろず)の神々の世界を描いた同作品はどう受け止められたのだろうか。

よろずの神様の国、日本。さまざまな神様が湯をいにくる温泉町という不思議の国に迷い込んでしまった千尋を描いた「千と千尋の神隠し」。「Spirited Away」として米国でもディズニーから公開されたが、一神教の多いアメリカの国民に、果たしてこのやおよろず神の世界が本当に理解されたのか。

第二次世界大戦中のことだが、文部省で映画「白雪姫」のプリントを見た漫画家、横山隆一達はその美しさに驚き、「日本は戦争に負けた」と思ったというエピソードが残っている。ディズニー映画はその当時の日本アニメに比べて数段優れていたわけで、こうした逸話が残ったのだが、現在は米国でもポケモンなどのキャラクターに人気が出たり、日本から輸入された多くのアニメがケーブルで次々に放映されたりと、日本アニメの活躍は止まるところを知らないように、アメリカに浸透してきている。その分、視聴者側の選択肢は、ひと昔前に比べればぐんと広がったのだが、それでも米国では、白雪姫もしくり、スーパーマンやバットマンなどに代表される正義の味方が主人公となった物語が根強い人気を占めているのも事実である。

善と悪を二分割にし、最後は善が勝って、めでたしめでたし、というのが多くの米国アニメの筋であり、善が勝たずに疑問符を投げかけて終わるものでも、登場キャラクターの善悪は終始一貫して変わらない。一部を除き、日本のアニメでもこの傾向が強かろう。しかし、登場人物を「善い人」「悪い人」の枠でくくってしまわないのが、宮崎作品の特徴でもあると言える。現実の世の中では、物事を善と悪に振り分けられないことのほうが多く、こうした意味で「千と千尋」は精神的にはリアリティに近い。

「千と千尋」に関するアメリカの主だったメディアの評論を見ると、多くが褒め言葉で始まり、多少の疑問点を投げかけたようなところもあったが、たいがい褒め言葉で結ばれている。空前の人気を博した日本で2億3400万ドル以上を売り上げ、ASIFAハリウッドからアーニー賞、ベルリン・フィルム・フェスティバルからゴールデンベア賞、そして今年のアカデミー賞を受賞した作品だけに、確かにこれにケチを付けるのは至難の業かもしれない。

しかしアメリカでは、この「千と千尋」を、「不思議の国のアリス」や「オズの魔法使い」と並べて論じているところもあり、そのファンタジー性の高さや描写の細やかさを強調して褒め称えてはいるのだが、肝心の「キャラクターを善悪に二分」することなく、それでも最後は個々がそれぞれのハッピーエンドに漕ぎ着くという点には触れていないところも多い。また、湯治にくる多くの神様達は、英語の字幕スーパーでは、「Gods」と訳されていたけれども、多くの説明などの部分では、アメリカ人に分かりやすいように「いろいろなSpirits」というふうに説明されている。ものによっては「threatening creatures」と表現しているところもあり、日本では悪い神様でも神様なのに、ここまで低ランクな表現をされて、とちょっと悲しくなったりした。人によっては、まるで神様だと思っていなかったようで、極端な例では、おばけの集まる島のように理解していた人もいた。確かにこの作品をただの日本版「不思議の国のアリス」と見た場合、それが神様だろうが、おばけだろうが、あまり変わりはないのだが、公害で汚染された川の神様を千が助ける場面というのは、この映画の中でも大きなパートを占めていると思うのだが、これもさほど深く理解はされていなかったような模様である。低年齢の子供であれば、この場面を見ただけで、川と公害を結び付けるのはいささか難しかったといえるかもしれない。

善悪の2分に関しては、ニューヨークタイムスの批評の中に、「善と思われていたものが、悪となったりする道徳の変化をここまでうまく表現したアニメーターは他にはいないだろう」というコメントがあったり、この作品に三ツ星をつけたHollywood.comでも「他のアメリカのアニメーションのように、この映画の中にははっきりした善と悪というものがない」と書かれている。きちんと見ている人は理解してくれているのだと少し安心してよいようだ。ただ、Hollywood.comでは、「空想に富んですばらしい」のだが、「時にわけが分からなくなる」作品と結ばれているのが少々気に掛かるが。

ちょうど米国アフガン攻撃時に日本で公開されたこの「千と千尋」は、ブッシュが挙げた「悪と善の二項対立」に反する人間観の1例として、よく取り上げられていた。つまり神様の中にも時には悪いことをする神様もいて、ものごとはすべてはっきり善悪に分けられるものではないという日本の人間観は、何でも善悪で割り切ろうという米国には相容れないのではないかというものだったが、ブッシュの掲げた「悪と善の二項対立」にしても、これは米国側から見た善と悪であり、反対側から見れば全く逆の見方になるということは当然理解されており、アメリカ人が物事を多面的に見ることを拒否しているわけでは決してない。戦争スローガンを作る時には、どこかでラインを引く必要性も出てくるだろうし、「正義の味方」物語で育ってきたアメリカ人ならずとも、善悪をはっきり分けたストーリーのほうが分かりやすいには違いない。だからといって、「千と千尋」が米国でまったく理解されていないとは考えにくい。ファンタジー性を強調したメディアが多いとはいえ、前述のニューヨークタイムスなどはかなり深い観点から評論を書いているし、宮崎作品はこちらでも人気がある。

一般の人からの感想では、前半は面白かったが、後半はお決まりのディズニー映画のようだがっかりしたという人と、最初はつまらなかったが、後半は興奮したという2種類がある。どうも宮崎作品をよく知る人は前半面白い説に傾いているようだ。最初の15分くらいでもう見るのが嫌になった、日本にはもっと他にいい作品がいっぱいあるのに、といった手痛いご意見もいただいたが、これはもう相性が悪かったとあきらめるしかない。

現在活躍する多くのジャーナリスト達の大きい賞賛を受け、この作品がアカデミー賞に輝いたことはまぎれもない事実であり、たとえ、一般のアメリカ人達が単なるファンタジー映画としてしかとらえていなかったとしても、この作品の奥に潜む本当の意味を伝えようと評論してくれるアメリカのジャーナリスト達がいる限り、その心は徐々に広がっていくはずだ。自分で見てみて分からなかったことを、評論を読んで補足したり、チャットコーナーに意見を載せることで自分の考えをまとめてみたり、というのは、日米を問わず映画ファンならよくやっていることだろう。むしろ、人々をそうさせるだけの力のある作品であったかどうか、ということのほうが問題だ。「Spirited Away」はアメリカにおいても、十二分にその力を含んだ作品であると思う。